

大会企画シンポジウムⅠ

9月12日(土) 14:40~17:10 3号館1階 50周年記念館

不易流行の応用心理学 ―これまでの応用心理学研究から未来を語る―

【概要】

私たちの社会には、時代を超えて変わらない「普遍的なもの」と、日々姿を変える「変化するもの」が重層的に存在しており、これまでの歴史をふまえても、インフラ、産業、社会構造など社会は常に大きく変化してきた。近年、生成 AI に象徴されるデジタルテクノロジーが驚異的に発展し、従来の形ある有形の物とは異なる質的な変化が生じている。私たちを取り巻く職場環境や日常生活様式、社会生活におけるコミュニケーションの形までもが大きく変化している。しかし、どれほど時代が移ろっても、人間が安らぎを求め、他者との関係性を築こうとする根源的な心の働きは、普遍的なものとして揺らぐことがない。

本シンポジウムでは、これまで産業・組織心理学、実験心理学・社会心理学、教育心理学、交通心理学など、応用心理学の発展に長年尽力してこられた専門家をお迎えし、この「普遍」と「変化」が交差する時代において、現代社会をどのように読み解くべきか、その視点を探るものである。

【シンポジスト】

角山剛（東京未来大学）

大坊郁夫（大阪大学、東京未来大学、北星学園大学）

藤田主一（日本体育大学）

森下高治（帝塚山大学）

蓮花一己（帝塚山大学）

＊五十音順

【司会】

山本勝則（札幌保健医療大学 保健医療学部）

多久島寛孝（熊本保健科学大学 保健学部）